

日本の低金利等ノウハウ導入で

韓国市場の競争促進に期待

Jトラスト

Jトラストグループが韓国の未来貯蓄銀行の事業を承継し新たにスタートした親愛貯蓄銀行（Kカードの子会社）のオープニングセレモニーが十月十九日に開催され、Jトラスト藤澤信義社長も臨席した。

藤澤社長は「いただいたチャンスに対し、親会社として適切なサポートをしていきたいと考えている。親愛貯蓄銀行には大きく二つの使命があると考えている。一つは貯蓄銀行ビジネスの成功モデルを作ること、もう一



新たなスタートを切る親愛貯蓄銀行（左藤澤信義社長）



（右）Jトラストの韓国進出に期待する藤澤信義社長

つはミドルリスクの資金需要者層に対してできる限り低金利の資金サービスをし、韓国経済に貢献すること。貯蓄銀行の中にはオーナーによる不正とプロジェクトファイナンスによる過剰融資で経営難に陥るところが後を絶たない。内部管理態勢によるコンプライアンスとコーポレートガバナンスの構築で不正を排除し、さらにこれまで積み上げたノウハウと経験を最大限に活かして二つの使命を達成したい」と、金融監督院などの行政機関を始めとする関係者に謝意と抱負を述べた。

さらに、従業員に向けては、「我々グループは様々なM&Aをしてきたが、基本方針は最大限の雇用を確保すること。大多数がここで仕事ができることはやはり関係者の皆さんのおかげであり、感謝の気持ちを共有していただきたい。もうひとつの基本方針は、自分で自分の居場所を作ること。経営陣は雇用を守ることに邁進するが、力を最大限に発揮し自身のポジションを勝ち取っていただきたい。まずは自分のため、そして家族のために働いてください。それが会社のためになり社会のためになる」と激励した。

でネオバンククレジット貸付で行っていたが、今後は親愛貯蓄銀行による金融サービス事業に集約する。すでに、ネオバンククレジット貸付では新規貸付を停止しており、同社で経験を積んだスタッフは親愛貯蓄銀行に移動した。韓国の貯蓄銀行による個人向け貸付は、三五%前後の金利で行っているところが多いが、親愛貯蓄銀行は三〇%を切る金利を設定し、競争優位に立つ方針。Jトラストとしての成長の歴史は長くないものの、武富士やKCカードを中心に、長年かけて培われた「経験」を携えたスタッフを多く抱えていることが、同社の自信につながっていると見えよう。拡大に向けて他行の経験者などを中心に従業員の採用も進めている。

Jトラストの韓国進出に対して、韓国当局は好意的な見方を示しているようだ。期待されているのは低金利商品の導入による「競争の促進」が与える消費者へのメリットと「日本の消費者金融ノウハウの導入」による貯蓄銀行業界の健全化にある。中央日報の伝えるところによると、金融委員会の中小金融課長は「日本の消費者金融は韓国より確実にノウハウが蓄積されている。貯蓄銀行業界も今回の機会を通じて貸付審査能力等を向上させられるものと期待している」と話している。